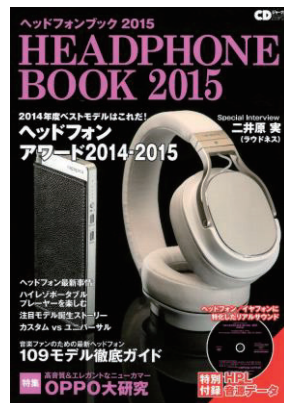


HEADPHONE BOOK 2015



小原由夫 *Yoshio Obara* が選ぶ
「ヘッドフォンアワード2014-2015」

2014年のヘッドフォン界の総括と2015年の期待

ハイレゾの世界は益々深度を深め、勢いは止まらない

“ハイレゾ”がニュースや一般誌でも採り上げられた2014年。日本発信のそのロゴが欧米のメーカー／製品にも採用されるなど、ハイレゾは確実にグローバルな広がりを見せている。マーケットもそれに呼応し、ポータブル系のハイレゾ対応モデルが一気に増えた。ポタアン、ポータブルプレーヤーなど、ハイレゾ対応でなければ売れないという状況。そこにDSDが加わり、新規参入も目白押しと、ハイレゾの世界は益々深度を深めている。ヘッドフォン／イヤフォン市場は、そうした周辺機器の盛り上がりがいナーシャとなって製品数が増大。勢いは止まらない。有名スポーツ選手の愛用がニュースになるなど、2015年はカスタムIEMが話題を集めそうだ。



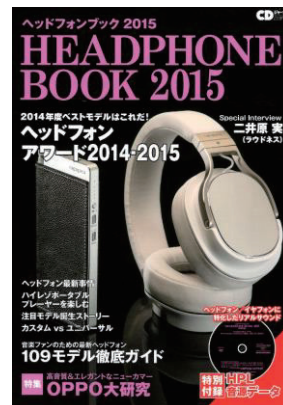
ADL

H128

オープン価格(4万3,000円前後)



好評のH118の上位モデルとしてデビューした本機は、見直しが図られてさらにフィット感を高めたAlphaトリフォーム・イヤークラップを採用。振動板にも改善が加えられ、銅コーティング特殊アルミ合金ワイヤーを用いたボイスコイルの採用など、さらに上を目指したコンセプト。醸し出される立体感が素晴らしいオールマイティ型。



中林直樹 *Naoki Nakabayashi* が選ぶ「ヘッドフォンアワード2014-2015」

2014年のヘッドフォン界の総括と2015年の期待

ハイレゾ対応モデルが多く登場したことが印象的だった

賛否両論あるものの、JEITAや日本オーディオ協会が「ハイレゾの定義」を行ない、それに準拠する製品が数多く姿を現したことが印象的だった。また、ハイエンドおよびミドルクラスを主軸としていたブランドから、カジュアルなラインも続々と登場。それはユーザーの裾野を広げ、ファンを増やし、上位機のクオリティを感じさせながら、玉石混淆たるこの状況を生き抜いてゆこうとする意図だろう。

さて、今年も業界再編とは言わないまでも経営統合が加速するはずだ。だが、それをポジティブに捉え、メーカーが培って来た文化と文化がぶつかり合い、新たなパワーが湧き起ることを僕は期待している。



ADL

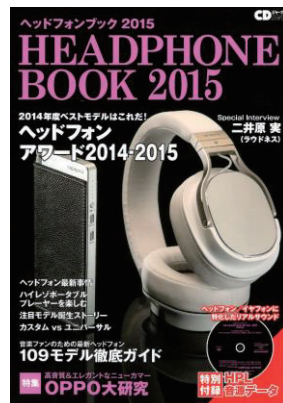
H128

オープン価格(4万3,000円前後)



一昨年好評を博したH118の上位機種。振動板に耐久性があり、かつ軽量のPEEKフィルムを使用。磁束の高いマグネットのほか、ダンピングリングやワイヤーなどにも吟味された素材が使用されている。また、H118と同様、立体的で耳の周囲にぴたりと沿うように設計されたハウジングは遮音性が高く、音楽を余すことなく耳に届ける。

HEADPHONE BOOK 2015



密閉型

ADL H128

オープン価格(4万3,000円前後)

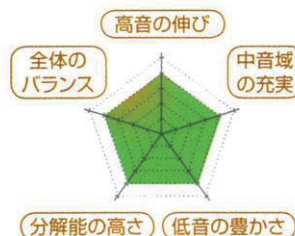
落ち着いた音調だが表情は鮮明。リズムの粒立ちもいい

H118の上位機種に相当し、強化された磁気回路やPEEKフィルムを投入した40mm径振動板など、素材の吟味と作り込みを一段と深めている。耳のカタチにフィットするADL独自の「Alphaトリフォーム・イヤークップ」を今回も採用し、装着性にも十分な配慮を行なった。低音は適度にダンプしながら量感には確実に向上し、ベースラインは安定。声や旋律の帯域は落ち着いた音調だが表情が埋もれることなく、リズムの粒立ちもクリアだ。(山之内)

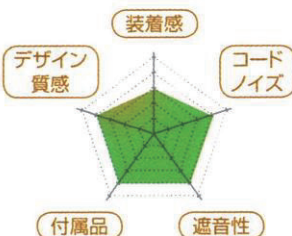
●形式：密閉型 ●ドライバー：φ40mmダイナミック型 ●再生周波数：20Hz～20kHz ●感度：98dB ●インピーダンス：68Ω ●ケーブル長：3.0m ●重量：約280g(ケーブル含まず) ●付属品：標準ケーブル、ロジウムメッキ処理交換用ケーブル、標準交換プラグ、ヘッドフォンケース



音質



機能性



Advantage & Disadvantage

ここがすごい! ここが惜しい

ヘッドバンドの形状とテンションを巧みにコントロールすることで、Alphaトリフォーム・イヤークップの長所をこれまで以上に発揮できるようになった。S/Nの良さ、深く沈み込む低音など密閉型のアドバンテージをこのイヤークップが引き出している面もありそうだ。その反面、個人差はあるもののイヤークップ下部が下顎骨の端に当たるのが気になるケースがあるかもしれない。いずれにしても側圧はやや強めだ。